

平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立京都御池中学校

4月22日に、本校9年生222名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

全体的に良好です。A問題（主として知識）だけでなく、B問題（主として活用）においても高い正答率となっています。国語・数学ともA問題の平均正答率は80%を超えていました。無解答率も1%台で、最後まで問題に取り組もうとする姿勢がうかがえます。B問題でも記述式の問題形式にしっかりと取り組んでいます。

国語科より

A問題では、各領域で全国を上回っており、特に「書くこと」は8ポイント上回っています。伝統的な言語文化については、歴史的仮名遣いだけでなく内容を問う問題もよくできています。ただ、漢字を「書く」という面は気になります。「ショウタイする」は1ポイント全国を下回りました。「行動にウツす」も「ショウタイ」と同様、無解答率が5%を超えていました。普段の生活で文章を書くときに漢字を意識して使うよう心がけましょう。

B問題では、特に「根拠を明確にして自分の考えをもつ」「人物像を想像する」「複数の資料から必要な情報を読み取る」などが全国平均を10ポイント以上上回っています。これからも、根拠の示し方やテキストを比較して読むことなどに取り組みましょう。また、落語に関する問題もよくできています。伝統文化に触れてきた経験が生かされたのではないでしょうか。地域の伝統文化をさらに身近なものとして大切にしていきましょう。

数学科より

A問題では、全ての設問で全国平均を上回っています。全国平均で正答率が50%を下回った文字式や関数、図形についての問題においても50%を超える正答率でした。ただ、「与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ」設問は正答率が50%未満でした。

無解答率は平均1.2%で、7問は無解答0でした。解答への意欲は高いといえます。

B問題でも全ての設問で全国平均を上回りました。記述式問題の平均正答率は全国平均を22.3ポイント上回っています。記述式問題の解答に改善傾向が見られます。ただ、図形の証明と資料の活用については、全体的な傾向においても課題となるところです。

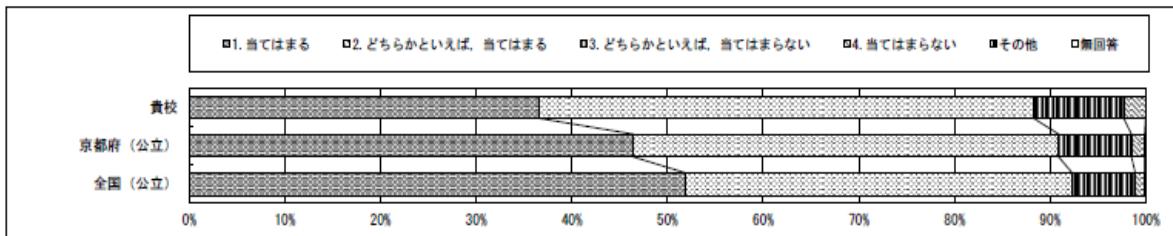
意味理解の重要性や記述式問題を中心とする解答への意欲は改善されてきてますが、図形の回転移動や図形の証明、資料の活用については、これからも確実に取り組みましょう。



生徒質問紙調査から①

Q 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。

質問番号	質問事項									
(9)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	36.6	51.6	9.4	2.3					0.0	0.0
京都府（公立）	46.4	44.4	7.6	1.4					0.0	0.1
全国（公立）	51.8	40.4	6.6	1.0					0.0	0.1



「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」が 10% を超え、全国より 4. 1 ポイント高くなっています。「当てはまる」だけを見ると、全国より 15. 2 ポイント下回っています。

別の質問「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか」とは「そう思う・どちらかといえばそう思う」が 70% を超えています。また、「2 年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」では「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」が 90% を超えていて、全国より 18. 1 ポイント高くなっています。積極的に話し合う活動には取組んでいるが、友達の発表を最後まで聞くことが苦手である傾向にあります。

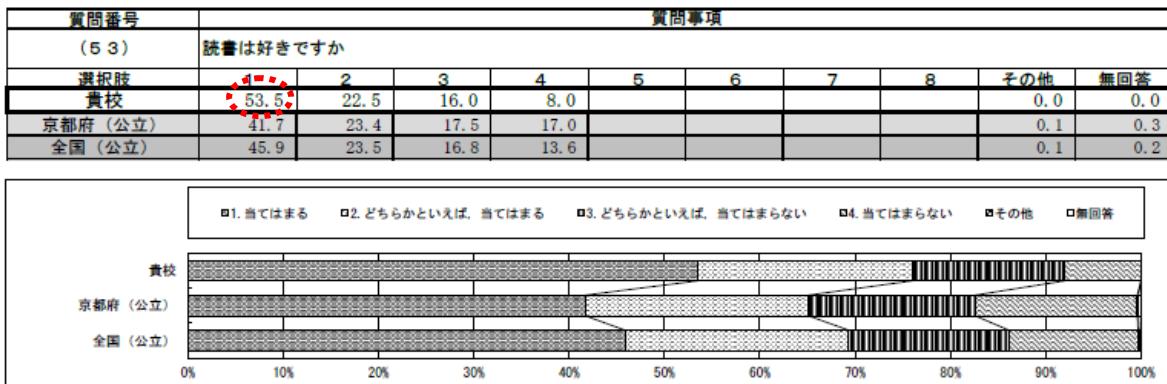
「話し合い」活動の意味を実感しながらも、「聞き方」には課題が残るようです。



生徒質問紙調査から②



Q 読書は好きですか

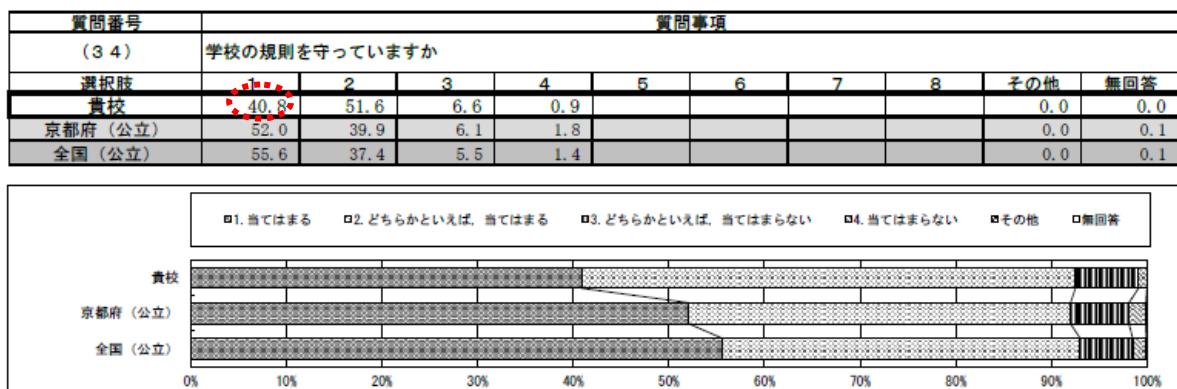


「当てはまる」が 50% を超え、「どちらかといえば当てはまる」と合わせると全国を 6.9 ポイント上回っています。「当てはまらない」は 10% 以下です。読書への関心は高いようです。「授業時間以外に、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問でも「全くしない」は全国を 12.7 ポイント下回っています。

読書の習慣は一生の宝とも言います。これからもいろいろな作品にチャレンジしてください。また、地域の方のご協力を得て、放課後の開館も行っていますので、利用してください。

生徒質問紙調査から③

Q 学校での規則を守っていますか



「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合は、全国と大きな差はありませんが、「当てはまる」と答えた割合だけ見ると、全国を 14.8 ポイント下回っています。きまりを守ることへの意識が確たるものではないようです。別の「友達との約束を守っていますか」という質問でも「当てはまる」だけを見ると、全国より 9.5 ポイント下回っています。

社会や人との関わりを形作るのに大切な「きまりや約束を守る」意識を高めていきたいものです。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「確かな学力の育成」を重点目標の一つに挙げ、小中一貫のコミュニティスクールの取組としても「学力向上と読解力の育成」を基本にしています。課題設定力・情報活用力・記述力・コミュニケーション力の4つの力を9年間を通して身につけられるように、指導の工夫や改善を図ってきました。また、少人数授業・TT授業を取り入れる教科を設け、個に応じた指導を行ってきました。

生徒も、教科の学習だけではなく、総合的な学習の時間等でも、資料を用いて考えをまとめたり、根拠を挙げて考え方を述べたりすることに取り組んできました。また、朝読書の時間など読書にも親しんでいます。

その結果、今回の調査で、国語・数学ともに記述式の問題で力を発揮しています。根拠を明確にして考え方を書く、問題解決の方法を説明する、理由を説明する、といった問題にもよい結果を残しています。

生徒質問紙の結果から基本的な生活習慣などは安定していることがうかがえ、学習を支える一因と思われます。ただ、生徒質問紙③で示したように、「きまりや約束を確実に守る」という意識の低さは弱点といえそうです。基本的なことを確実にすることや自分という存在と他との関わりをさまざまな場面で実感させることなどをさらに意識して取り組んでいきたいものです。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、これまでの調査と比べて、学力は着実に伸びてきており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

